

# 3年生学年だより

平成28(2016)年6月16日

第22号

吹田市立第二中学校第三学年

## シミュレーションの重要性

みなさんは「釜石の奇跡」という言葉を聞いたことがありますか？

次のエピソードを読みましょう。

千年に一度の超巨大津波に襲われた東日本大震災から明日で3年。被災地の調査を続ける中で、常々思い知らされるのは「津波てんでんこ」の教えの正しさだ。てんでんこは各自のこと。海岸で大きな揺れを感じたときは、津波が来るから肉親にもかまわず、各自てんでんばらばらに一刻も早く高台に逃げて、自分の命を守れ—という意味だ。この教訓に基づき、大学教授の指導で津波からの避難訓練を8年間重ねてきた岩手県釜石市内の小中学校では、全児童・生徒計約3千人が即座に避難。生存率99・8%という素晴らしい成果を挙げて「釜石の奇跡」と呼ばれた。平成23年3月11日。午後2時46分に東日本大震災が発生すると、釜石東中の副校長は教室から校庭に出始めた生徒たちに、「(避難所へ) 走れ!」「点呼など取らなくていいから」と大声で叫んだ。そして若い教職員に、率先避難者となって生徒たちと避難所へ走るよう指示。避難所は約700メートル南西の福祉施設で、所在地は訓練で全生徒に周知していた。当初、一部の生徒は走らず、校庭に整列しようとしたが、副校長らは懸命に「逃げろ」「走れ」と指示。そのため全員が校門を出て、避難所へと駆けだした。一方、鶴住居小は耐震補強が終わったばかりの鉄筋コンクリート造り3階建ての校舎で、雪も降っていたことから、当初は児童を3階に集めようとしていた。しかし、「津波が来るぞ」と叫びながら走っていく中学生らを見て、教職員は避難所行きを即断。小学生も一斉に高台へ走り出した。このとき、鶴住居小には保護者数人が児童を引き取りに来ていた。教職員は児童を避難させたことを説明し、一緒に避難することを勧めたが、1人は児童をつれて帰宅し、津波の犠牲になってしまったという。避難した小中学生約600人は、標高約10メートルの福祉施設に到着したが、裏手の崖が崩れそうになっていたため、中学生らがもっと高台への移動を提案。さらに約400メートル離れた標高30メートルの介護施設へ、小学生の手を引きながら避難した。この直後、津波遡上(そじょう)高は20メートルに達し、福祉施設は水没。「津波てんでんこ」の教訓と、防災意識の高い中学生の冷静な状況判断が、多くの命を間一髪で見事に救う結果となった。



# 今日の課題は・・・。

2016年4月14, 16日に起きた熊本地震から、2ヶ月が経ちました。いつ起きるかわからない自然災害への備えは食料などの物質的面だけではなく、どう行動するかという行動面においても必ず必要になってきます。

昨日の道徳の時間は「あなたならどうする？」という5つの質問に対して、自分なりにシミュレーションを行いました。各クラス、活発な意見が出されていました。同じ課題を考えても、一人ひとりそこから想像する場面は違います。そのため、「こんな考えもあるのか？」という気づきを多く感じられた1時間になったと思います。このシミュレーションに正解はありません。

課題に対する意見をいくつかを紹介します。新たな気づきは、ありますか？

## 3-1 1班 Sさん

「我が家には3日分の保存食と水の準備があります。しかし、避難所では多くの家族が保存食や水を持ってきていません。あなたはその食料をみんなに分け与えますか。」という質問に対して、「自分たちもその保存食と水に手をつけないで、取っておいてボランティアの人が配ってくれるのと一緒に自分たちのものを差し出す。」

## 3-2 8班 Sさん

「真冬の朝方に地震が発生しました。避難所に指定されている小学校までは歩いて20分かかりますが、歩いて5分のところに公民館があります。あなたなら、まず公民館に行きますか。」という質問に対して、「公民館は、家から近いから近くに住んでいる高齢者の人や小さい子が、遠くの小学校まで行くのは大変だと思う。だから、元気な自分たちは公民館ではなく、小学校に行く。」

## 3-3 6班 Sさん

「あなたは避難所へ避難してきて避難所の運営を手伝っている。避難所には1000人います。しかし、避難所に配られてきた食料は800食でした。以降の見通しは今のところありません。この800食を配りました。」という質問に対して、「大人だけでは、足りないかもしれないけれど、避難してきている人は大人や子どもなどいろいろな人がいると思うから、子どもの量を減らすなどして、みんなが食べられるように配る。」

### 岸辺地区の避難所

第二中学校 大阪学院高等学校 岸一地区公民館 岸辺第二小学校 岸二地区集会所  
青少年クリエイティブセンター 岸二地区公民館 岸辺第一幼稚園 岸辺市民センター

では、少し難しい問題に  
班でチームを組んで解決の道を探してみよう。

**真冬のある朝、大きな地震で被災した住民350世帯、1000人が中学校の体育館に避難してきました。通常であれば、学校の先生が指示を出すのですが、駅から学校までの道が繋がっておらず、たまたま集まった中学生がボランティアグループを組んで、避難所の運営にかかわることとなった。道路が不通のため、人や物が避難所になかなか届かない。地震発生から3日目の朝をむかえた。**

### <避難所の状況>

- 停電している。館内の照明器具は壊れていない。
- 食料はビスケット160食
- 飲料水は500mlペットボトルが120本
- 水道は断水している。
- 電話機はあるが、通話制限がかかっている。
- パソコンとプリンターが1セットある。
- 体育館内には、フロア以外に次の部屋がある。  
倉庫2部屋、  
畳の敷いてある教官室1部屋  
事務室(パソコン、電話)1部屋
- 体育館にはトイレが1カ所ある。  
男子の個室が2つ、女子の個室は5つ
- 各部屋のカギは、ボランティアが持っている。
- 校舎内には立ち入ることができる(耐震工事済)

### <課題1>

**真冬のため、夜の気温が下がる。体調不良のまま避難所に来た方もいて、インフルエンザの疑いもある。ストーブはあるが灯油がないのでつけることができない。**

**停電しているため、夜は暗く、移動が難しい。**

**また、幼い子は不安で泣き出すこともある。**

### <課題2>

**断水しているため、トイレの排泄物を流すことができない。徐々にではあるが、便器で用がたせなくなっている。**

**また、体育館は3階にあり、トイレは1階であるために、お年寄りや身体の不自由な方から、トイレに行きにくいという相談がよせられている。**